

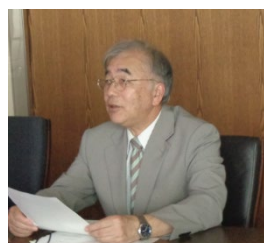
日本教育大学協会が附属学校連絡協議会を開催

日本教育大学協会（会長＝佐々木幸寿・東京学芸大学長）は、6月1日（月）に全国国立大学附属学校連盟（理事長＝関口睦・前埼玉大学教育学部附属中学校長）との共催により、附属学校連絡協議会をWebにて開催し、附属学校の校長・副校長、附属学校担当理事・副学長、附属学校部長、統括長又はその職に準ずる者、事務職員をはじめとする関係者約320名が出席した。

開会の挨拶で佐々木会長は、「本協議会は、学校教育及び附属学校における教員養成の諸問題について協議を行い、附属学校の充実を図ることを目的としている。日本教育大学協会の企画・調査研究委員会では、国立大学附属学校の在り方検討ワーキンググループを設置しており、『国立大学附属学校自己点検・評価』を隔年、『国立大学附属学校園の実態調査』を毎年実施している。今後の附属学校の改善を図るうえで、参考にさせていただきたい。昨今、附属学校を含めた国立大学の存在意義が問われる時代となっており、関係者一丸となって、教育の質向上と附属学校の価値の発信に取り組むことが不可欠である。国や地域の期待に十分応えられるよう、附属学校本来の役割を果たしてまいりたい。」と述べた。続いて、関口理事長より挨拶があり、附属学校が大学の魅力向上にも寄与し、大学と附属学校双方の魅力化を図ることの必要性について言及があった。

その後、文部科学省による説明では、総崎由希児童生徒課生徒指導室長からいじめ問題等への対応について、岩田育美男女共同参画共生社会学習・安全課女性政策調整官から「生命（いのち）の安全教育」について、佐藤貴大男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室長から学校安全等の推進について、小野真沙美文教施設企画・防災部計画課企画官から附属学校に係る施設整備の推進について、山本祥生幼児教育課専門職から一時預かり事業（幼稚園における預かり保育）について、若林徹専門教育課教員養成企画室長からこれからの附属学校に期待することについて、それぞれ最新の施策説明があった。

最後に、同ワーキンググループ座長の関口理事長から、令和7年度日本教育大学協会企画・調査研究委員会国立大学附属学校の在り方検討ワーキンググループの活動について、報告があった。



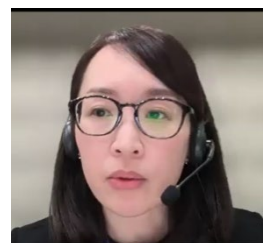
佐々木会長



関口理事長



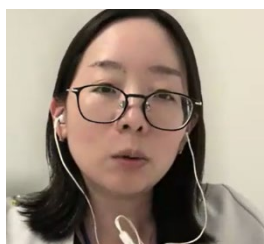
総崎室長



岩田調整官



佐藤室長



小野企画官



山本専門職



若林室長